

カジカ *Cottus pollux* Günther

【選定理由】

河川の直線化およびコンクリート護岸化に起因する土砂堆積量の激減および隠れ場所の消失等、生息環境が悪化しているため、個体数が大幅に減少していると推定される。

【形態】

体長 10cm 程度。体表に鱗がなく、胸鰭が大きい。体色は淡褐色から暗褐色まで変異に富み、体側に暗色斑紋が 4~5 個ある。ウツセミカジカに酷似するが、本種は胸鰭条数が少ないこと (12~14 本)、尾柄が太いこと、卵が大きいことなどで区別される。

【分布の概要】

【県内の分布】

矢作川、豊川。

【国内の分布】

北海道、本州、四国および九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

本種は陸封型で、河川で一生を過ごす。3~6月に繁殖し、直径 3 mm を超える卵を産む(後藤, 1989)。主に礫底で産卵し、雄は孵化まで卵を守る。動物食性で、水生昆虫や甲殻類などの底生動物を餌として利用する。

【現在の生息状況／減少の要因】

河川の直線化による緩流部の喪失による砂底あるいは砂礫底の減少、浮き石の埋没、本流から遡上できる細流の消失等により生息適地が減少している。

【保全上の留意点】

本来は県内の広範囲に分布していたものと推測される。堰堤による遡上阻害を軽減するとともに、産卵場所となる河床環境を修復・復元する必要がある。

【特記事項】

環境指標種とされることが多い。近年、カジカ(大卵型)から名称が変更された。これまでウツセミカジカの分布と混同されていた可能性もある。矢作川水系では 1985 年に種苗放流実績があるが(小山, 1996)、ウツセミカジカであった可能性も否定できない。

【引用文献】

小山舜二, 1996. 動物. 設楽町史「自然編」(設楽の自然調査会編), p.638. 第一法規出版, 名古屋.
後藤 晃, 1989. カジカ. 川那部浩哉・水野信彦(編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚, pp.666-667. 山と溪谷社, 東京.

【関連文献】

木村清志・岡田 誠・山下剛司・谷山 泉・淀 太我・廣瀬 充・佐土哲也・木村文字, 1999. 長良川河口域に出現する魚卵・仔稚魚. 三重大学生物資源学部紀要, 23: 37-62.

(谷口義則)